

平成24年度建設副産物実態調査結果（中部地方版）について

～建設廃棄物再資源化・縮減率は3.0ポイント向上、建設発生土利用率は8.1ポイント向上（前回調査比）～

平成26年3月28日
中部地方建設副産物
対策連絡協議会

平成24年度に中部地方の建設工事から排出された建設副産物について、再資源化及び排出量等の調査結果をとりまとめましたので公表致します。

●建設副産物実態調査とは

- ・全国の建設工事や再資源化施設等を対象に、建設副産物の発生量、再資源化状況及び最終処分量等の動向に関する実態を把握するための統計調査です。
- ・調査結果は建設リサイクルに関する諸施策の策定及びその効果の進捗状況の把握等に役立てています

●調査結果の概要**1. 再資源化及び排出量等の動向****(1) 建設廃棄物**

平成24年度の建設廃棄物の再資源化・縮減率は、97.7%と前回調査（平成20年度）より3.0ポイント向上しています。品目別にみると、アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設発生木材、建設汚泥で向上しています。

【参考資料1-1参照】

また、平成24年度の建設廃棄物の排出量は、896万トンとなり、前回調査（平成20年度）より5.0%減少しており、最終処分量は21万トンと前回調査（平成20年度）より58.0%減少しています。

【参考資料1-2参照】

(2) 建設発生土

平成24年度の利用土砂の建設発生土利用率は89.7%と前回調査（平成20年度）より8.1ポイント向上しています。

【参考資料1-1参照】

平成24年度の建設発生土の搬出量は、1,704万m³となり、前回調査（平成20年度）より7.5%減少となりました。

【参考資料1-2参照】

2. 「建設リサイクル推進計画2008」の目標達成状況

アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊、建設発生木材（再資源化率）及び建設発生木材（再資源化・縮減率）、建設汚泥、建設廃棄物、建設発生土については平成24年度目標を達成していますが、建設混合廃棄物（排出量）については平成24年度の目標を未達成です。

【参考資料1-1参照】

配布先：中部地方整備局記者クラブ

<問い合わせ先>

中部地方建設副産物対策連絡協議会 事務局

中部地方整備局 企画部 技術管理課 専門職 東、専門員 桑原 TEL052-953-8131

平成 24 年度建設副産物実態調査結果参考資料

1. 建設副産物の再資源化の動向 関連資料

- ・建設廃棄物は、前回調査(平成 20 年度)に比して3. 0ポイント増である。
- ・建設発生土は、前回調査(平成 20 年度)に比して8. 1ポイント増である。

表 1. 建設副産物^{注1)}の再資源化率^{注2)}や再資源化・縮減率^{注3)}の状況及び「建設リサイクル推進計画 2008」^{注4)}の目標達成状況

	平成17年度 (A)	平成20年度 (B)	平成24年度 (C)	平成24年度(C) -平成20年度(B)	建設リサイクル推進計画2008	
					平成24年度 目標値	目標値 達成状況
アスファルト・コンクリート塊の再資源化率	98.9%	98.6%	99.9%	1.3%	98%以上	達成
コンクリート塊の再資源化率	98.9%	98.5%	99.7%	1.2%	98%以上	達成
建設発生木材の再資源化率 ^{注5)}	74.8%	81.6%	93.6%	12.0%	77%	達成
建設発生木材の再資源化・縮減率 ^{注5)}	92.8%	85.6%	97.5%	11.9%	95%以上	達成
建設汚泥の再資源化・縮減率	72.1%	92.7%	95.1%	2.4%	82%	達成
建設混合廃棄物の排出量	33万トン	37万トン	42万トン	4万トン	23.1万トン	未達成
建設混合廃棄物の排出量削減 (平成17年度比)	—	10%増加	26%増加	—	平成17年度比 30%削減	—
建設廃棄物の再資源化・縮減率	94.0%	94.7%	97.7%	3.0%	94%	達成
利用土砂の建設発生土利用率 ^{注6)}	83.7%	81.6%	89.7%	8.1%	87%	達成

注1) 建設副産物：建設工事に伴って副次的に得られる物品であり、建設廃棄物(コンクリート塊、建設発生木材など)及び建設発生土(建設工事の際に搬出される土砂)の総称。

注2) 再資源化率：建設廃棄物として排出された量に対する再資源化された量と工事間利用された量の合計の割合。

注3) 再資源化・縮減率：建設廃棄物として排出された量に対する再資源化及び縮減された量と工事間利用された量の合計の割合。

注4) 「建設リサイクル推進計画 2008」(国土交通省 平成 20 年 4 月策定)

参照URL：<http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha08/00/000423/02.pdf>

注5) 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

注6) 利用土砂の建設発生土利用率：土砂利用量(搬入土砂利用量+現場内利用量)のうち土質改良を含む建設発生土利用量の割合。

2. 排出量の動向 関連資料

- ・建設廃棄物は、前回調査(平成20年度)に比して5.0%減少、最終処分量は58.0%減である。
- ・建設発生土は、前回調査(平成20年度)に比して7.5%減である。

(1) 建設廃棄物

表2-1. 建設廃棄物排出状況

(単位: 万トン)

調査年度	排出量	再資源化量		
		再資源化量	縮減量	最終処分量
平成20年度(A)	943	873	21	50
平成24年度(B)	896	863	13	21
増減量(B)－(A)	-47	-10	-8	-29
増減率 ((B)－(A))／(A)	-5.0%	-1.1%	-38.1%	-58.0%

(2) 建設発生土

表2-2. 建設発生土の搬出状況

(単位: 万m³)

調査年度	搬出量	搬出先		
		工事間利用	土質改良プラント	内陸受入地
平成20年度(A)	1,843	362	166	1,315
平成24年度(B)	1,704	422	125	1,156
増減量(B)－(A)	-139	60	-41	-159
増減率 ((B)－(A))／(A)	-7.5%	16.6%	-24.7%	-12.1%

単位: 万トン

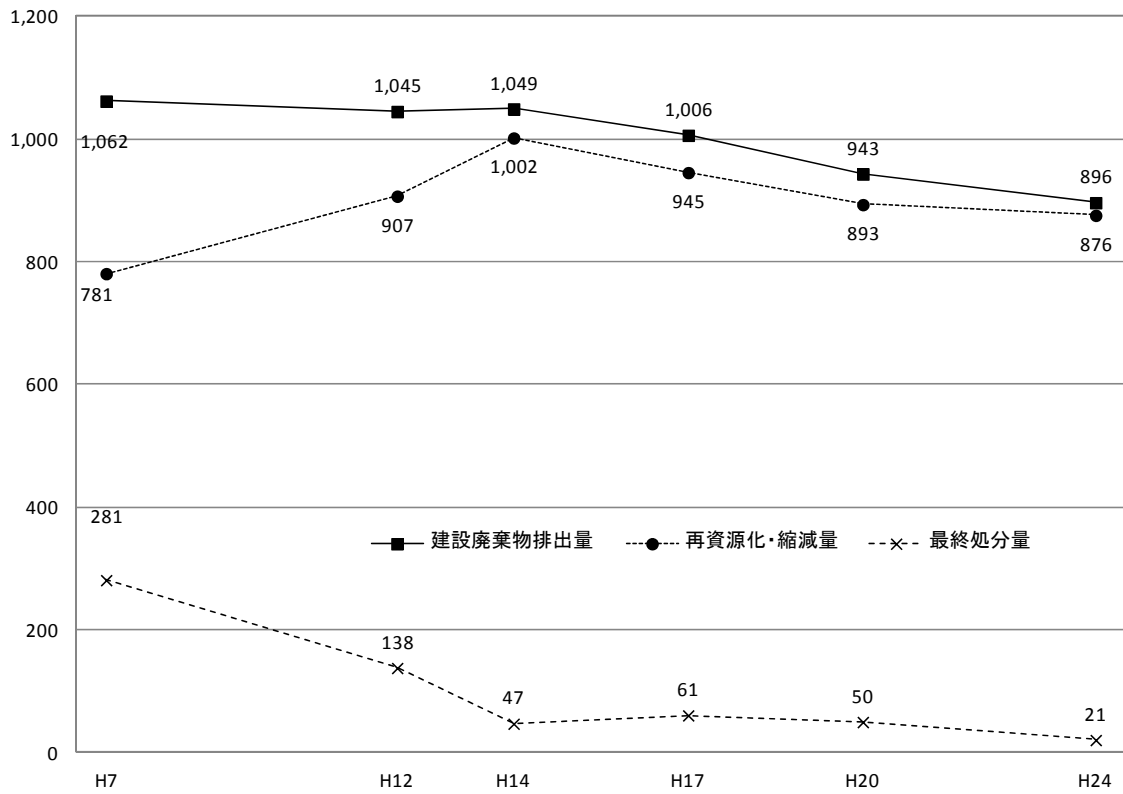


図1. 建設廃棄物の排出量、再資源化・縮減量及び最終処分量の経年変化

単位: 万トン

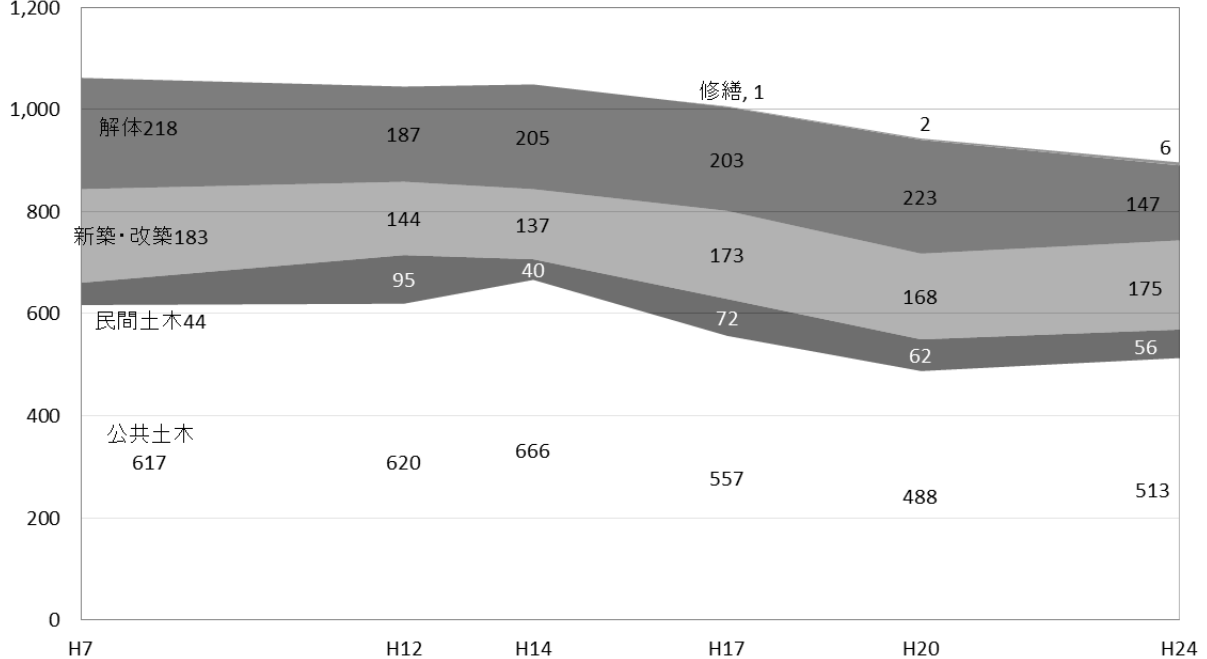


図2. 建設廃棄物の工事区別排出量の経年変化

3. 再資源化率等の状況 関連資料

(1) 建設廃棄物の再資源化率等

- ・建設廃棄物は、平成7年度以降上昇傾向にあり、特にアスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊は、平成12年度以降高い再資源化率を保っており、平成24年度でも更に再資源化率が増加している。また、建設発生木材は平成24年度で再資源化率が大幅に増加している。
- ・建設汚泥(再資源化率、再資源化・縮減率)は、平成7年度以降概ね上昇傾向である(平成17年度を除く)。
- ・建設混合廃棄物の排出量は、平成17年度に比して26%増である。

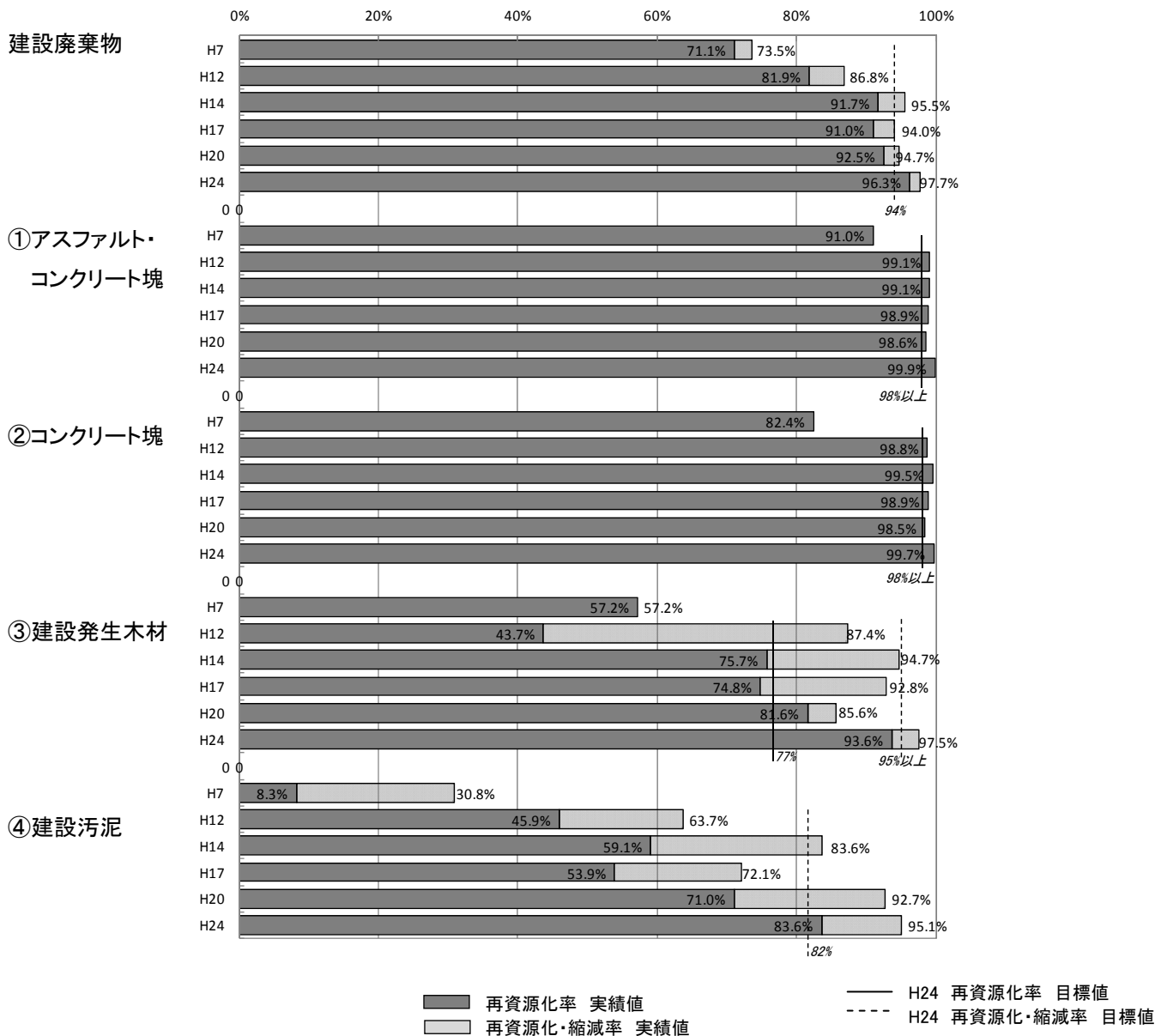


図3-1. 建設廃棄物の再資源化率等

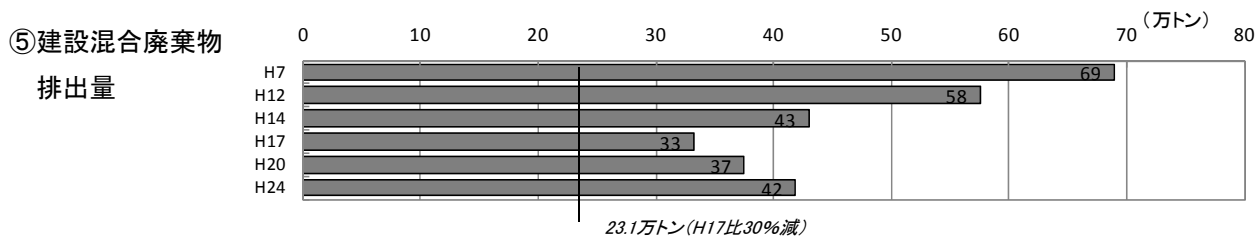


図3-2. 建設廃棄物の再資源化率等

■ 排出量 実績値
— H24 排出量 目標値

(2) 利用土砂の建設発生土利用率

・利用土砂の建設発生土利用率は、平成 14 年度以降減少傾向にあったが、平成 24 年度は大幅に増加した。

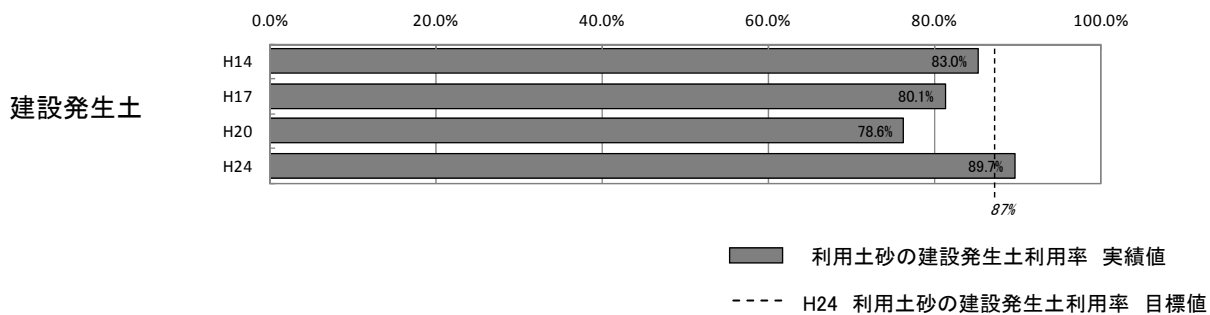


図4. 利用土砂の建設発生土利用率

(3) 建設廃棄物の品目別再資源化率等

表3. 品目別再資源化率、再資源化・縮減率

		場外排出量 ①+②+③			(単位:万トン)	
		①再資源化量	②縮減量	③最終処分量	再資源化率	再資源化・縮減率
H7	アスファルト・コンクリート塊	391	355	0	35	91.0%
	コンクリート塊	429	353	0	75	82.4%
	建設汚泥	98	8	22	68	8.3%
	建設混合廃棄物	69	2	4	63	
	建設発生木材	57	33	0	24	57.2%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	19	4	0	16	
	建設廃棄物全体	1,062	755	26	281	71.1%
H12	アスファルト・コンクリート塊	334	331	0	3	99.1%
	コンクリート塊	427	422	0	5	98.8%
	建設汚泥	154	71	27	56	45.9%
	建設混合廃棄物	58	2	1	55	
	建設発生木材	54	24	24	7	43.7%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	19	7	0	12	
	建設廃棄物全体	1,045	855	52	138	81.9%
H14	アスファルト・コンクリート塊	399	395	0	4	99.1%
	コンクリート塊	467	465	0	2	99.5%
	建設汚泥	67	40	17	11	59.1%
	建設混合廃棄物	43	8	12	23	
	建設発生木材	55	41	10	3	75.7%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	18	13	0	5	
	建設廃棄物全体	1,049	962	39	47	91.7%
H17	アスファルト・コンクリート塊	375	371	0	4	98.9%
	コンクリート塊	426	421	0	5	98.9%
	建設汚泥	65	35	12	18	53.9%
	建設混合廃棄物	33	7	5	21	
	建設発生木材	55	41	10	4	74.8%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	52	41	3	9	
	建設廃棄物全体	1,006	916	30	61	91.0%
H20	アスファルト・コンクリート塊	326	322	0	4	98.6%
	コンクリート塊	438	431	0	7	98.5%
	建設汚泥	66	47	14	5	71.0%
	建設混合廃棄物	37	11	2	24	
	建設発生木材	57	46	2	8	81.6%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	18	15	2	2	
	建設廃棄物全体	943	873	21	50	92.5%
H24	アスファルト・コンクリート塊	334	334	0	0	99.9%
	コンクリート塊	364	363	0	1	99.7%
	建設汚泥	77	65	9	4	83.6%
	建設混合廃棄物	42	29	0	13	
	建設発生木材	63	59	2	2	93.6%
	その他(廃プラスチック、紙くず、金属くず)	16	13	2	1	
	建設廃棄物全体	896	863	13	21	96.3%

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。
再資源化率: ① ÷ (①+②+③)
再資源化・縮減率: (①+②) ÷ (①+②+③)

単位: 万トン

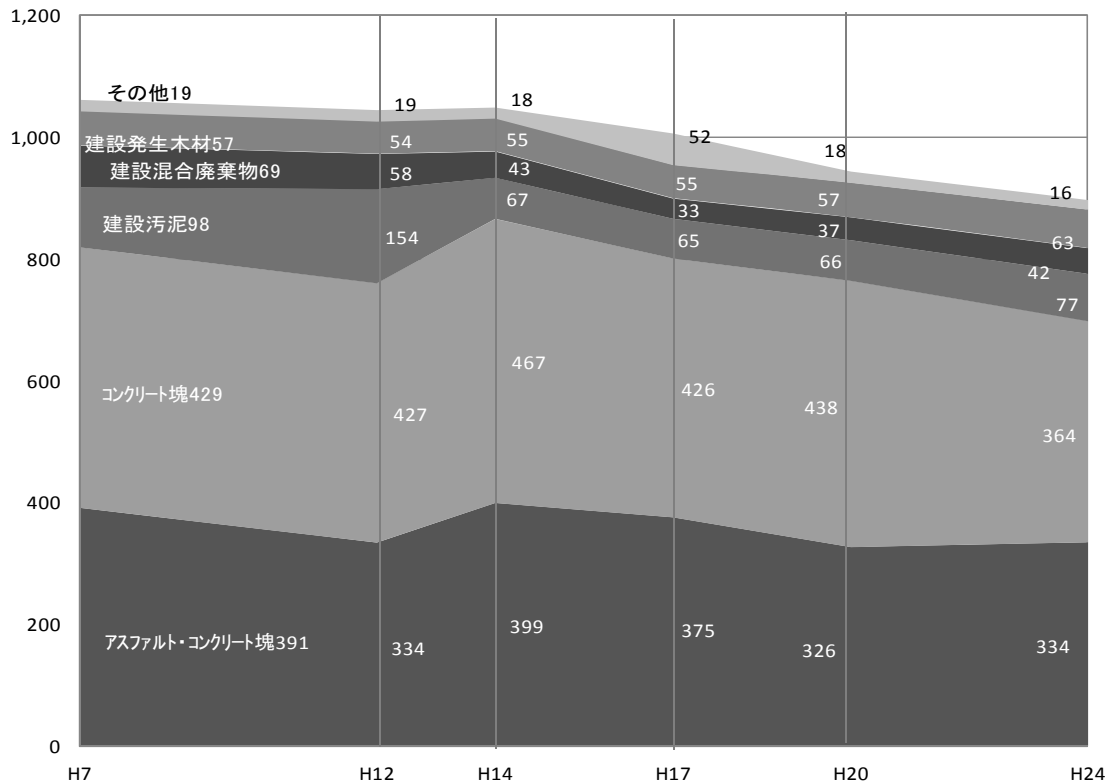


図5. 品目別建設廃棄物の排出量

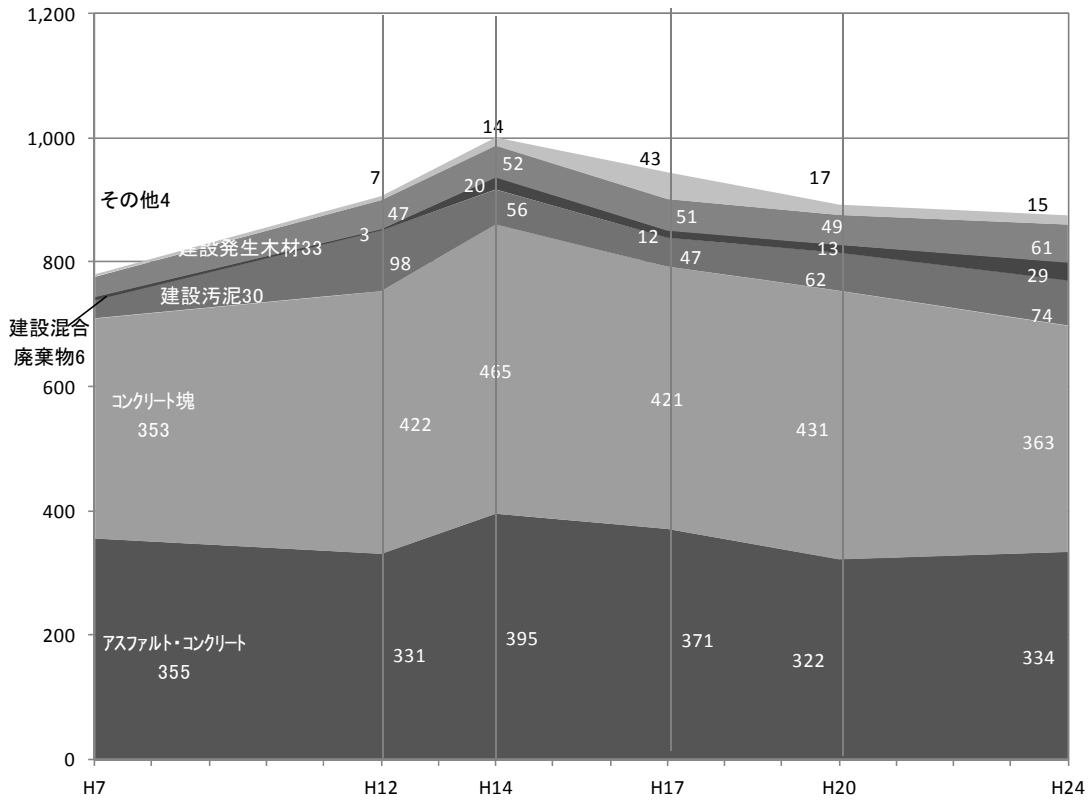


図6. 品目別再資源化・縮減量

単位: 万トン

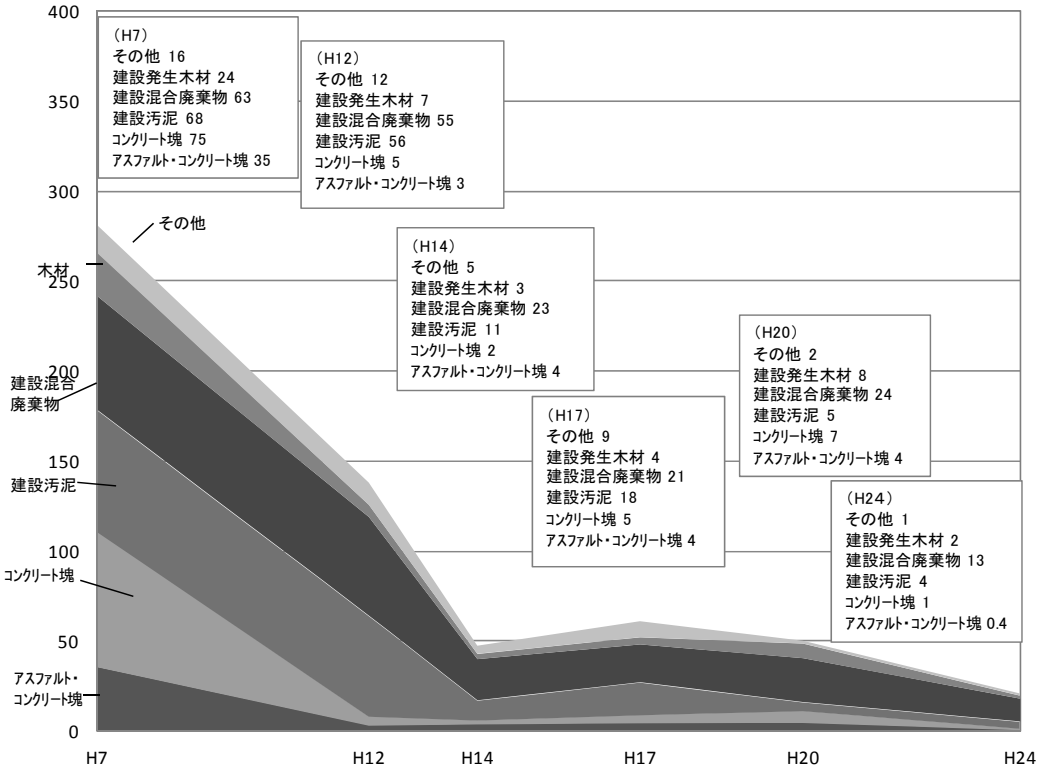


図7. 品目別最終処分量

(4)建設発生土の搬出量及び土砂利用搬入量

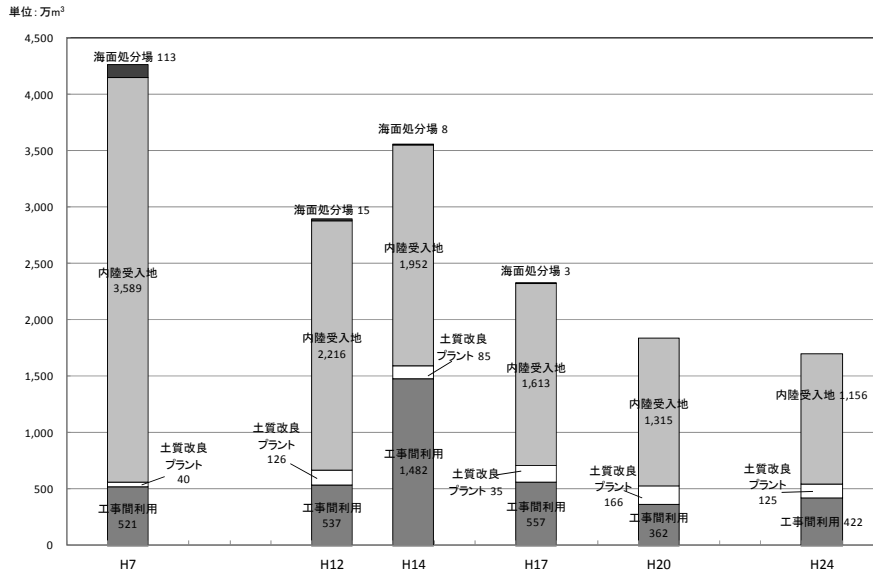


図8. 建設発生土搬出状況

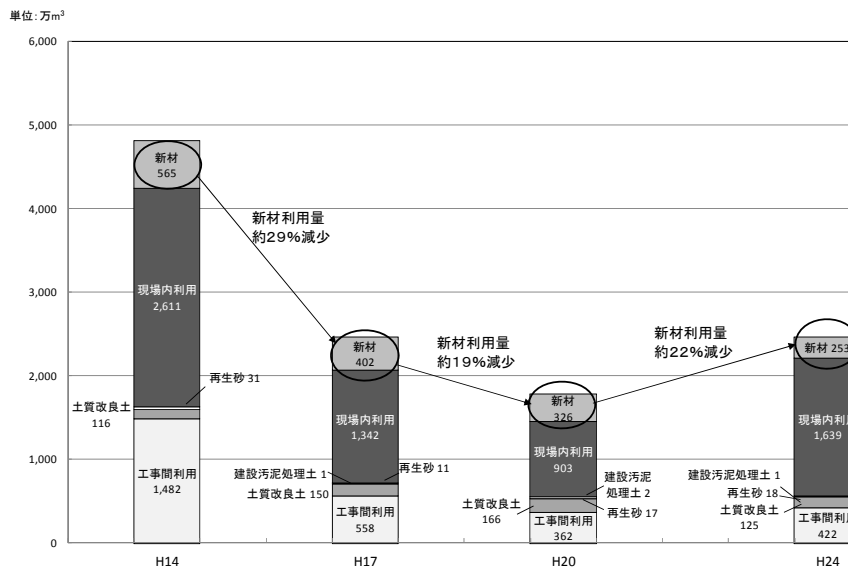


図9. 土砂利用搬入状況

表4. 利用土砂の搬入利用状況

(単位: 万m³)

	平成7年度	平成12年度	平成14年度	平成17年度	平成20年度	平成24年度
土砂利用量	1,888	1,788	4,804	2,463	1,776	2,459
②工事間利用	511	537	1,482	558	362	422
③土質改良土	40	126	116	150	166	125
⑥建設汚泥処理土	0	0	0	1	2	1
⑦再生砂	4	17	31	11	17	18
⑧新材	1,333	882	565	402	326	253
⑨搬入土砂利用量	1,888	1,562	2,193	1,120	873	821
⑩現場内利用		226	2,611	1,342	903	1,639
利用土砂の建設発生土利用率 (②+③+⑥+⑦+⑩) / (⑨+⑩)	29.4%	50.7%	88.2%	83.7%	81.6%	89.7%

注1: 平成7年度は現場内利用量を調査していない。

注2: 平成12年度の現場内利用量は、100%現場内完結工事を含まない。

注3: 丸囲いの番号は、図14. 建設発生土搬出及び土砂利用搬入状況の番号と整合している。

4. 地方ブロック別の建設副産物再資源化等状況

表5. 県別の建設副産物再資源化等状況

(単位:%)

	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	中部	全国
アスファルト・ コンクリート塊	100.0	100.0	99.8	99.9	99.9	99.5
	(99.3)	(99.7)	(99.0)	(94.6)	(98.6)	(98.4)
コンクリート塊	100.0	99.9	99.6	99.5	99.7	99.3
	(97.3)	(99.3)	(98.4)	(98.1)	(98.5)	(97.3)
建設発生木材 (縮減除く)	94.6	93.3	94.5	91.3	93.6	89.2
	(81.0)	(79.3)	(83.9)	(78.7)	(81.6)	(80.3)
建設発生木材 (縮減含む)	99.3	97.7	97.4	96.2	97.5	94.4
	(86.6)	(85.4)	(86.5)	(82.1)	(85.6)	(89.4)
建設汚泥 (縮減含む)	88.9	90.9	97.8	89.5	95.1	85.0
	(91.8)	(78.3)	(96.2)	(92.3)	(92.7)	(85.1)
建設混合廃棄 物排出量 (万トン)	5.5	7.6	23.2	5.6	41.8	279.5
	(3.5)	(9.1)	(16.7)	(8.2)	(37.5)	(267.0)
建設廃棄物全体	98.5	98.1	97.8	96.3	97.7	96.0
	(95.1)	(95.5)	(95.0)	(91.3)	(94.7)	(93.7)
利用土砂の 建設発生土利用率	85.1	93.6	87.4	91.3	89.7	88.3
	(84.7)	(72.0)	(70.3)	(82.6)	(77.3)	(78.6)

注) 四捨五入の関係上、合計値とあわない場合がある。

注1: 1段目は、平成24年度の値
2段目の()は、平成20年度の値

注2: 建設発生木材については、伐木材、除根材等を含む数値である。

【各建設副産物の再資源化等状況の算出方法】

- ・アスファルト・コンクリート塊、コンクリート塊：
再資源化率＝(再使用量＋再生利用量)／排出量
- ・建設発生木材(縮減除く)：
再資源化率＝(再使用量＋再生利用量＋熱回収量)／排出量
- ・建設発生木材(縮減含む)：
再資源化・縮減率＝(再使用量＋再生利用量＋熱回収量＋縮減量(焼却による減量化量))／排出量
- ・建設汚泥(縮減含む)：
再資源化・縮減率＝(再使用量＋再生利用量＋縮減量(脱水等による減量化量))／排出量
- ・土砂(現場内利用含む)：
利用土砂の建設発生土利用率＝(土砂利用量のうち土質改良を含む建設発生土利用量)／土砂利用量
※土砂利用量とは、搬入土砂利用量＋現場内利用量である。
また、現場内利用量については、100%現場内完結工事を含めます。